

航 路 改 善 計 画

平成 2 6 年 2 月 2 4 日

航路名： 姫島～国見航路

事業者名： 姫 島 村

1 . 姫島～国見航路運営協議会の概要

本協議会は、地域公共交通確保維持改善事業のために平成 23 年 5 月 1 日に設立したものである。今般、姫島～国見航路の改善のための調査事業を実施するにあたり、次のとおり協議会（幹事会）を開催し、調査の方法・内容等の検討、調査の結果及び問題点・課題の確認、具体的な航路改善計画策定に係る協議を行った。

第 1 回幹事会 日時：平成 25 年 7 月 29 日（月）10:30～12:00

場所：大分県庁舎 本館 32 会議室

内容：調査等請負業務委託業者の選定

第 2 回幹事会 日時：平成 25 年 11 月 26 日（火）10:30～12:00

場所：九州運輸局大分運輸支局 会議室

内容：姫島村住民及び航路利用者アンケート調査結果の内容確認、
航路診断・経営分析結果の内容確認

第 3 回幹事会 日時：平成 25 年 12 月 17 日（火）9:15～12:00

場所：九州運輸局大分運輸支局 会議室

内容：航路の問題点・課題の確認及び航路改善計画の内容に係る
協議

第 4 回幹事会 日時：平成 26 年 1 月 17 日（金）9:15～12:00

場所：大分県庁舎 本館 31 会議室

内容：航路改善計画の内容に係る協議

第 1 回協議会 日時：平成 26 年 2 月 20 日（木）9:15～11:00

場所：大分県庁舎 本館 32 会議室

内容：航路改善計画の内容に係る協議

書面協議会 日時：平成 26 年 2 月 24 日（月）

内容：調査報告書及び航路改善計画の承認

協議会構成メンバー

委 員	大分県企画振興部観光・地域局長	森竹 嗣夫
〃	九州運輸局大分運輸支局長	中川原達也
〃	姫島村企画振興課長	西谷 久一
〃	姫島村船舶課長	山際 正英

委員	姫島村商工会会長	花田 忠
〃	姫島村区長会会長	伊東 靖洋
幹事	大分県企画振興部観光・地域局交通政策課長	大塚 久司
〃	九州運輸局大分運輸支局首席運輸企画専門官	鹿毛幸一郎
〃	姫島村企画振興課長	西谷 久一
〃	姫島村船舶課長	山際 正英

2. 航路の現況

本航路は、姫島～国見間に1日12便(12-3月は11便)を運航しており、航路距離6km、所要時間20分である。旅客運賃は、大人550円、小人280円で、一般の往復割引はないが、姫島村住民向けの往復割引があり、運賃は880円(姫島待合所のみ販売)となっている。就航船舶は、「第一姫島丸」(平成12年4月就航、199トン、旅客定員211名)と「第二姫島丸」(平成4年4月就航、197トン、旅客定員211名)の2隻であり、船員15名による運航が行われている。

大正13年の開設当初から姫島村営航路として運航され、その後、姫島～国東・大分・別府航路や姫島～山口県徳山航路を開設したが、昭和49年からは現在の姫島～国見航路のみの運航となっている。

旅客輸送人員は、漸次減少しており、平成23年度以降は28万人台と横ばいで推移している。1日平均旅客輸送人員は、平成24年度で771人と平成20年度に比べて60人(7.2%減)も減少している。

車両輸送台数は、姫島村内での公共工事の減少による工事車両の減少等により、平成23年度が前年度から2,804台(11.4%)減少の21,806台と大幅に落ち込んだ以降は、ほぼ横ばいで推移している。1日平均輸送台数は、平成23年度までは約67台で推移し、それ以後は60台前半で推移している。

平成22年の人口は、2,189人で平成2年と比べて1,000人程度減少している。平成7年以降は人口が減少に転じ、平成17年以降の減少率は2ケタとなっており、将来推計でも減少傾向に歯止めがかからず、平成27年には1,989人と2,000人を割り込む予測となっている。

3. 航路診断結果

航路診断として、就航船舶、運航体制、運航時刻・便数、運賃、発着場、他の交通機関との接続状況、運航回数、輸送実績、需要予測、離島航路補助施策について検討を行い、更に本航路の利用実態とニーズをアンケート調査により把握した結果等から、次のとおり現状における課題が整理された。

(1) 航路経営環境における課題

- ・ 将来の航路利用者の減少を見据えた航路の維持体制を構築する必要がある。
- ・ 姫島村住民の高齢化に対応した航路設備（バリアフリー対応）の整備が必要である。
- ・ 交流人口拡大に向けて観光受入体制の整備を促進し航路利用者を底上げする必要がある。

(2) 航路運営における課題

- ・ 姫島村住民の航路運営に対する理解促進のため、航路運営の現状を可能な限り情報公開する。
- ・ ジオパークを活用したジオツーリズム・交流型イベントなどで観光利用を中心とした交流人口の増加に努める必要がある。

(3) 航路利用者及び姫島住民の視点からの課題

- ・ 航路利用者の利用状況やニーズ、特に姫島村住民の利用状況やニーズに可能な限り対応した航路運営、サービスを提供する必要がある。

(4) 航路事業者の経営診断からの課題

- ・ 「第二姫島丸」の代替（リプレイス）の実施により、減価償却費、起債の利子負担等の費用が増加することから、航路維持のため、費用全体をさらに軽減する必要がある。

4. 航路改善計画

(1) 概要

航路改善計画の策定にあたっては、生活航路としての維持確保、姫島住民をはじめ航路利用者のサービス水準の向上、航路事業者の経営安定（収益増加・費用削減）につながる視点で検討を行い、具体的な改善施策として次のとおり取り組むこととした。

新船建造（「第二姫島丸」代替（リプレイス））

省エネ船の効率的な運航割当 [新船投入時直ちに取り組む]

経費の圧縮・削減 [直ちに取り組む]

航路運営に対する理解促進（地域への情報公開） [直ちに取り組む]

従業員の教育・マナーの向上 [直ちに取り組む]

待合所及び周辺、乗降環境の改善 [直ちに取り組む]

交流人口の拡大による利用促進 [直ちに取り組む]

情報発信及びPRの強化 [直ちに取り組む]

運賃の適正化の検討 [継続的に取り組む]

運航便数の見直しの検討 [継続的に取り組む]

「第一姫島丸」の代替（リプレイス）計画の検討 [継続的に取り組む]

(2) 具体的内容（離島航路構造改革補助関係）

前述の改善施策のうち 新船建造について、「第二姫島丸」の船齢は 21 年であり、最近の中間検査で船底にひび割れが見つかるなどの老朽化が進行しており、今後は修繕費がかさむことが予想されるため、代替に関する検討を行う必要がある。

なお、建造費については、離島航路構造改革補助金の活用や船舶安全法等の関係法令で要求される新船設計を行う。それを基本にして過剰設備の排除等で圧縮を図る。

検討方法

新船の船種・規模等を 3 パターン（ア：現行と同程度、イ：現行よりも減トン、ウ：船種の変更（純旅客船））で航路サービス面、費用対効果を検証した。

新船導入の留意点

- ・船舶の規模は、地域政策との連携、航路サービス面、費用対効果、接岸設備の状況を考慮し、既存船舶を踏襲した「199 トン規模のフェリー船」とする。
- ・高齢者が安全に安心して利用できるよう、旅客船のバリアフリー義務基準による船体のバリアフリーを行うとともに、可能な限り義務基準よりも進んだバリアフリー化となる推奨基準を目指した設備の導入を検討する。
- ・「第二姫島丸」は、車輛を積載する区域が開放されている（甲板上積載）ため、運航中の強風、高波等により積載した車輛が潮をかぶる場合があり、改善に向けた要望がなされている。そのため、車輛を積載する区域は閉鎖した区域とし、航送サービスの質を向上させる。
- ・なお、主機（エンジン）は安定的で経済性の高い省エネ運航を実現する適正な出力とする。具体的には、現行の「第一姫島丸」と「第二姫島丸」の両船よりも省エネ運航が可能になる主機を選定して燃料費、修繕費の削減を図る。

(3) その他

省エネ船の効率的な運航割当（4-(1)- ）

- ・省エネ船（新船）の優先運航を実施する。ただし、船員法等の関連法令を遵守した運航割当とする。

経費の圧縮・削減（4-(1)- ）

- ・事務職員 2 名相当の人件費を削減する。
- ・継続的に経費削減に向けた取組を検討・実施する。

航路運営に対する理解促進（地域への情報公開）（4-(1)- ）

- ・航路利用状況や航路運営上の意見や要望への回答等を姫島村報に情報公開する。
- ・利用者意見や要望については回答書を待合所の掲示板に随時掲載する。

従業員の教育・マナーの向上（4-(1)- ）

- ・挨拶の励行を行う。
- ・ミーティングで教育指導を実施する。
- ・先進事業所への船員研修や事例紹介の勉強会を実施する。

待合所及び周辺、乗降環境の改善（4-(1)- ）

- ・待合所及び周辺の清掃を定期的に従業員自ら実施する。
- ・（公財）九州運輸振興センターなどの支援制度を活用した航路設備の導入を検討する。
- ・高齢者など補助、手荷物の多い人に対して運搬の補助を船員が行う。
- ・伊美港周辺の有料駐車場に一般客の優先駐車区域を設定する。

交流人口の拡大による利用促進（4-(1)- ）

- ・船舶課を含めた姫島村役場全体と地域住民と連携したジオツーリズム、交流型イベントなど観光振興を行う。

情報発信及びPRの強化（4-(1)- ）

- ・姫島村の観光情報HPの掲載内容の充実を図る。
- ・航路の運航状況（欠航情報）等を「九州のりもの info.com」への掲載を検討する。

運賃の適正化の検討、運航便数の見直しの検討、「第一姫島丸」の代替（リプレイス）計画の検討（4-(1)- ）

- ・航路利用者の動向、航路収支状況の変化に対応できるよう検討・実施する。